



R.I. District2610 . ROTARY CLUB OF UOZU

魚津ロータリークラブ 会報誌

2008 - 2009 年度 RI 会長 李 東建 (リ トンカン)

魚津 R.C 会長 大村 雅紹

第 2646 回 例会報告

2008 年 9 月 5 日

ゲスト並びにビジター紹介

ゲスト 長崎 喜一様 (夢想塾) ビジター 大城 宗文 (魚津西 RC)
米山奨学生 リー・ホー君

誕生祝

9 月 4 日 辻 浩君 誕生日のお祝いありがとうございます。57 歳になりました。20 代後半にロータリーに入り 30 年近くになりました。入った頃は食事も喉を通らないのが 2・3 年続きスリムでした。最近、ずうずうしく残さず食べるようになり横へ伸びています。今後も仲良くして頂きたい願いを込め御礼申し上げます。

会長挨拶

大村会長 ゲストの長崎さん、大城さん、リーさんお忙しいところおいで下さいました。ごゆっくりして行って下さい。誕生日の辻さん、長いロータリー暦がありますので魚津 RC を盛んにするように頑張ってくださいと思います。

来週はガバナーの訪問が当クラブにあります。是非、皆さん、万障繰り合わせの上、出席頂きたいと思います。昨日、西 RC の原さんのお通夜にお参りました。ご報告しておきます。



植木の話ですが、今、花が咲いているのに「きょうちくとう(夾竹桃)」があり、夏から秋にかけて赤色、白色、ピンク色の花が咲きます。暖かいところの木で富山県辺りがほぼ臨界かなと思っています。非常に毒性が強く取扱いに十分注意が必要です。過去、箸代りで食事に使ったら死亡者が出たり、あちこちで中毒症状を起こしたりしている。川崎では市の樹木に選定しています。

米山奨学生

リー・ホー君 奨学金ありがとうございます。先日は入善 RC を訪問しスピーチを行いました。皆さんに喜ばれ中国について興味を持って沢山質問を受けました。とても良かったと思っています。

幹事報告

黒部中央 RC より 9 月度例会案内あり

つくし学園から 運動会のご招待 9 / 26 (金) 10 : 00 ~ 魚津市障害者交流センター
魚津西 RC 40 周年記念誌が出来ているのでご覧ください

出席報告

21 名 77.77% 欠席 : 8 名 メイキャップ : 武隈、中島

第 2644 回メイキャップ 大城 出席率 77.77% 80.55%

ニコニコボックス

なし

委員会報告など

辻浩さん 釜山釜一 RC より、「秋の紅葉はいかがですか」と言う事で打診がありました。

急遽、委員の方に話をさせてもらった。先方は日程、人数、名前もはっきりしていない。こちらの希望として 11 月は受入無理のため 10 / 21 を伝えた。はっきりしたら私が担当します。ビール券・商品券など事務局へ届けて欲しい。

小浜さん 「ロータリーの友」より 新世代の...」各 RC の国内外での活動について...。RI 指定記事 : コンピューターを通して豊かな職場作り。スーパーマー



ケットいずみや：身近な食の安全に苦心されている。地域ブランドについては魚津も見習って展開できれば…。クラブ探訪：合津若松 RC の活動例として健康診断とかいろいろやっておられる。その他：「卓話のいずみ」など参考になります。

本日の卓話 ゲスト卓話 夢想塾 長崎 喜一様 … 炭にかける夢】

【経歴】昭和16年朝日町生まれ 1964年東京農業大学卒 その後県の職員 2001年に退職
その5・6年前に夢想塾を完成 新聞・テレビなどで受賞され、昨年、総務大臣賞を受賞されている。



【卓話】 昨日から市振の子供たちが合宿していました。10時頃来まして、まず夕食の準備をしながら午後から紙すきをして、小竹を叩き 竹筆を作りました。炭の粉を煮詰めて墨を作り自分の作った筆で、2・3文字を紙に書き、「かや」を編んでそれに飾ると自分の記念になる。役に立つものを作らせている。

もともと夢想塾は、夢を形に…ということであるが、飲むと語れるが、次の日に忘れてしまう。それでは価値がない。飲んだときの勢いを形にするために夢想塾を作った。52歳のときに定年後に75歳まで生きることを考え、ログハウスを作ろうと小屋を作った。向かいに朝日岳があり、「ぜんまい」など山の恵みで遊べるかなあ…と思い自分のために作った小屋である。

冬になると寒くなり暖が必要になり炭を作るようになった。その後、ただの炭だけでは面白くないということで「花炭」を作ろうと思い「そのカマ」を作ること考えた。「花炭」の発想は、伊達政宗がお茶花に使っていたのが「お花炭」だそうです。それについて仙台の図書館で調べてもらったが文献がない。口伝えだけで廃れて行ったようだ。しかし、仙台でも同じように「カマ」を作ろうと一緒に思いの人がいる。負けたくないということで「そのカマ」を作り始めた。



近くに70歳位の炭作りのじいさん達が15名程いたが、当初から相手にされなかった。2・3年すると技を持っている人達は口だけで指導に来たが、道理だけ理解し気にしなかった。その頃、横浜から釣りに来たグループがあり興味を持って手伝ってくれた。今でも来ている。初釜で煙を出したらじいさん達が興味をもった。じいさん達は、白炭を作るために長野県・群馬県などを廻っていた集団であり、(プライドがある?) 私のやっていることは許せないようであった。私が一年間 かかって作ったものを彼らは二週間で作り上げてしまうのだから感服してしまう。

小屋作りや炭作りの技を習っている内に、だんだん煙が出てくると子供たちが集まってくる様になり、炭を焼いたり手伝ったりしていた。その内に、家から木々を入場券代わりに持ってきてもらい釜に入れたり焼いて出して写真を撮ったりしていたが、学校でどうしたら生活に役立つかを考えてもらった。脱臭、ろ過、土壌改良などを言ってあげるとそれなりの活用を考え、ヒントを得ながら炭作りや活用まで



も考えさせてもらうことになった。炭は黒いから白い和紙作りに入った。昔40年前は紙作りを手伝っていた。それを思い出しながら挑戦した。道具は無いが子供たちにプロセスを教え作れば良いと言う事でやらせた。作るだけでなく文集の用紙や卒業証書の用紙にするなど目標を持たせて物作りをやらせた。

勉強だけでは物足りないということで、水や木とか森から出てくるので森作りが基本であろう「風のみち森作り」を行った。林を切って風が入るようになれば人も入る。子供たちにも手伝ってもらった。森は資源だと言う事を覚えてくれる。物作りやアスレチックなど地下に触れさせ森の効用を感じ取ってもらう。子供たちが、一日一日大人に近づいていくことが分る。